

5. 研修カリキュラムおよび運用体制の見直し

5-1. カリキュラムの構成

モデル研修における受講者、講師によるアンケート調査の分析結果を踏まえ、研修カリキュラムの見直しを行った。

カリキュラム構成およびカリキュラム内容の 2 つの側面から、見直すべき点と改善の方向性について検討し、作業部会における議論を経て見直し案を策定した。

以下に主な検討事項を示す。また、見直し案を**図表 66 カリキュラム見直し（案）**に、個々の項目についての検討の経緯を**図表 67 モデル研修検証に基づくカリキュラム見直し**に示す。

【構成に関する検討事項】

- 冒頭に、研修を開始する前の導入（オリエンテーション）として、本研修の目的と意義、専門的知識を有する相談員の役割等について説明する。研修担当機関等が行ってもよいこととする。（**研修時間内に含めない**）
- 單元ごとに内容に応じて、時間の拡大、縮小する。
- 受講者の集中力の維持や疲労に配慮し、90 分を超える場合、途中で休憩をとる、または演習や参加型の活動の時間を設ける。
- 5.1、5.2、5.3 は全て同じ 120 分とする。
- 5.1、5.2、5.3 は演習を中心とし、講義内容は 1～4.2 の中で取り入れる。

【内容に関する検討事項】

- 各單元のはじめに、その單元におけるキーワードを複数提示し、知っているかどうかを挙手などで全体に問いかけ、受講者のレベルを把握する。
- 各単元の終わりに、講師の全体講評やコメント、質疑応答の時間を増やす。
- 制度・法令については、新しい点や業務上の留意事項を中心に解説する。
- 「こころとからだのしくみの理解」については、疾患を含む身体的変化、心理的变化、認知症が生活機能に与える影響についても説明する。
- 「新しい（福祉用具）」とすると、未知の事項を期待されるため、「最近の・・・」とする。内容はテキスト等で標準化を図る。
- 「5.2 ケアチームにおける福祉用具の役割」では、チェックシートを用いず、ディスカッションとロールプレイングを中心とする。
- 3 日目は演習の時間では、同じことの繰り返しとならないよう、事例演習だけではなく、ロールプレイング等も取り入れる。
- 3 日目の最後に、総合演習に関する総括や全体講評の時間を設ける。

図表 66 カリキュラム見直し（案）

	大項目	小項目	内容等	形式	時間	
一 日 目	0	オリエンテーシ ョン	本研修の目的と意義 ※20 時間には含まれない	講義	(10 分)	
	1	福祉用具と福祉 用具専門相談員 の役割	専門的知識・経験を有する福祉用具専門相談員に求め られる役割 福祉用具の定義と種類、役割 介護保険制度における福祉用具専門相談員の位置付け と役割の確認 福祉用具専門相談員の仕事内容の確認 職業倫理	講義	30 分	
	2	介護保険制度の 最近の動向	介護保険制度の仕組みと動向 地域包括ケアの考え方と福祉用具専門相談員の関わり	講義	50 分	
	3	高齢者の医療・介 護に関する知識	こころとからだのし くみの理解 障害の理解 発達と老化の理解	(こころとからだのしくみ) (応用編) 発達・老化、障害等の関わり方に関する知識 加齢に伴う心身機能の変化の特徴 ケアにおける新しい概念の理解	講義	50 分
			認知症の理解	認知症の理解と対応	講義	40 分
			コミュニケーション に関する技術	利用者、家族、ケアチームの他職種とのコミュニケー ションに関する具体的な知識	講義	50 分
			介護技術と福祉用具	(介護技術) (応用編) 介護技術と福祉用具に関する具体的な知識	講義	50 分
	4	福祉用具および 住宅改修に関す る知識・技術	住環境と住宅改修	住環境と福祉用具に関する経験に基づく具体的な知識	講義	90 分
			福祉用具の特徴と活 用	福祉用具の種類、機能、構造及び利用方法 基本的動作と日常の生活場面、高齢者の状態像・生活 スタイルに応じた福祉用具の特徴 各福祉用具の選定・適合技術	講義	60 分
			最近の福祉用具の動 向・活用	最近の福祉用具の動向・特徴・利用方法	講義	30 分
二 日 目	業務プロセスに 関する知識、技術	福祉用具貸与計画書 等の作成	(計画書の意義の理解と作成、活用) (応用編) 的確なアセスメント (利用者・環境の評価) 能力 利用者や環境の状況に応じた適切な用具選定能力	講義 演習	150 分	
		ケアチームにおける 福祉用具専門相談員 の役割	ケアマネジャーと円滑に連携する能力 サービス担当者会議での発言・説明・提案能力 医療・福祉などの多職種との連携	講義 演習	150 分	
		業務プロセスに関す るスキルの向上	福祉用具に関する情報提供・生活全般についての相 談対応能力 状況に応じた利用者・家族とのコミュニケーション能 力 搬入・設置・搬出のきめこまかい調整能力 利用者や環境の状況に応じた利用指導・適合調整能力	講義 演習	150 分	
三 日 目	6	総合演習	学習内容を踏まえた総合演習 一連のプロセスの実践、チェック	演習	5 時間	
				計	20 時間	

※ 上記とは別に、筆記の方法による修了評価（1 時間程度）を実施すること。

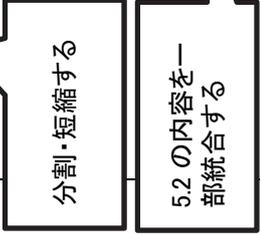
※ 到達目標に示す知識・技術等の習得が十分でない場合には、必要に応じて補講等を行い、到達目標に達するよう努めるものとする。

図表 67 モデル研修検証に基づくカリキュラム見直し

研修時間には含まれない

モデル研修前		見直し案	
大項目	小項目	内容等	時間
		<p>目的と意義を最初に伝える 研修実施機関等が担当しても可</p>	
1	福祉用具と福祉用具専門相談員の役割	<p>福祉用具の定義と種類</p> <ul style="list-style-type: none"> 介護保険制度や障害者総合支援制度等における福祉用具の定義と種類の復習 福祉用具の役割 <ul style="list-style-type: none"> 利用者の日常生活動作（ADL）等の改善 介護負担の軽減（実際の担当事例に即して再確認する） 自立支援に対する有用性、効果 介護保険制度における福祉用具専門相談員の位置付けと役割の確認 福祉用具専門相談員の仕事内容の確認 <ul style="list-style-type: none"> 福祉用具による支援（利用目標や選定の援助、使用方法の指導、機能等の点検等） 目標設定や福祉用具貸与計画書等の意義 職業倫理 <ul style="list-style-type: none"> 福祉用具専門相談員の倫理（法令順守、守秘義務、利用者本位、専門性の向上等） 	30分
		<p>福祉用具と福祉用具専門相談員の役割</p>	
		<p>福祉用具と福祉用具専門相談員の役割</p>	
2	介護保険制度の最	<p>介護保険制度等の仕組みと動向</p> <ul style="list-style-type: none"> 介護保険法の理念、仕組み、関連制 	50分

モデル研修前		見直し案	
大項目	小項目	内容等	時間
新動向		<p>度の概要の確認 介護保険制度を巡る社会状況と制度の動向、今後の展望（高齢者の増加、重度化、認知症、在宅支援の重要性と看取り、関連する制度の変遷） 福祉用具サービスをめぐる動き、制度の変遷</p> <p>➤ 地域包括ケアの考え方と福祉用具専門相談員の関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域包括ケアの理念や構成要素、多様な支え方の確認 地域ケア会議の役割・機能の確認 医療・介護に関わる各専門職の役割の確認 地域包括ケアにおける福祉用具専門相談員の関わりのポイント（自立した在宅生活の支援に向けた、福祉用具の効果的な利用の観点からの提案、助言） 	50分
高齢者の医療・介護に関する知識	<p>こことから だのしくみの 理解 認知症の理解 障害の理解 発達と老化の 理解</p>	<p>90分</p> <p>➤ 加齢に伴う心身機能の変化の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> 加齢、認知症、障害、こことからだのしくみについて確認 心理機能の変化の特徴（喪失体験、環境への不応等）について確認 高齢期に特徴的な疾患が、生活機能にどのように影響を与えるかを例示し、福祉用具専門相談員が、遭遇する可能性の高い場面を例示する（例）脳疾患系、筋骨格系、精神神経系（認知症、うつ、気分障害等）、内科系、がん、ターミナル期の状態、など 利用者の状態像の変化に応じて、生活機能がどう変化していくのか、について確認 <p>➤ 認知症の理解と対応</p>	50分
	<p>こことから だのしくみの 理解 障害の理解 発達と老化の 理解</p>	<p>90分</p> <p>➤ 加齢に伴う心身機能の変化の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> 加齢、認知症、障害、こことからだのしくみについて確認 心理機能の変化の特徴（喪失体験、環境への不応等）について確認 高齢期に特徴的な疾患が、生活機能にどのように影響を与えるかを例示し、福祉用具専門相談員が、遭遇する可能性の高い場面を例示する（例）脳疾患系、筋骨格系、精神神経系（認知症、うつ、気分障害等）、内科系、がん、ターミナル期の状態、など 利用者の状態像の変化に応じて、生活機能がどう変化していくのか、について確認 <p>➤ 認知症の理解と対応</p>	50分



モデル研修前		見直し案		
大項目	小項目	内容等	時間	
		<p>認知症の症状、認知症高齢者の心理・行動の特徴に対して、住環境や福祉用具の観点からどのようにアプローチしていくのかについて学習・復習</p>	<p>活機能がどう変化していくのか、について確認</p> <p>ケアにおける新しい概念の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際生活機能分類 (ICF) フレイル、サルコペニア、ロコモティブシンドロームなど <p>「<u>人権と尊厳の保持</u>」の理念の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> プライバシー保護、身体拘束禁止、虐待禁止、ノーマライゼーション、エンパワメント、クオリティオブライフ (QOL) 	40分
		<p>認知症の理解と対応</p> <ul style="list-style-type: none"> 認知症の疫学的側面・医学的側面・心理社会的側面について確認 認知症の症状、認知症高齢者の心理・行動の特徴に対して、住環境や福祉用具の観点からどのようにアプローチしていくのかについて学習・復習 	<p>認知症の理解</p> <p>分割する</p>	
		<p>日常生活動作 (ADL) における介護技術</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常生活動作に関連する介護の意味と手順、その際に用いる福祉用具 <p>特に配慮を要する場面における介護技術</p> <ul style="list-style-type: none"> 特に配慮を要する状態像の利用者や、介護場面における介護の内容、適用される福祉用具 適切な福祉用具の選定、適合のポイント <p>コミュニケーションに関する技術</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用者・家族とのコミュニケーションの重要性 福祉用具専門相談員が、利用者や家族の主体性を尊重するということの意味 利用者や家族の置かれている身体・心理・社会的な状況への配慮 コミュニケーション技術の基礎と応用 コミュニケーションにおいて留意すべき点 意思疎通が困難な場合のコミュニケーションの実践例 意志確認が難しい人の意思決定 	<p>90分</p> <p>分割・短縮する</p> <p>5.3の内容の一部を統合する</p>	50分

モデル研修前		見直し案		
大項目	小項目	内容等	時間	
		<ul style="list-style-type: none"> 新しい機能をもつ福祉用具の特徴、 利用方法 基本的動作と日常生活スタイルに応じた福祉用具の特徴 各福祉用具の選定・適合技術 福祉用具の選定・適合の視点、実施方法 福祉用具の適合には、身体能力・状態への適合と生活環境との適合があることを理解する。 生活環境との適合には、住環境と住まい方の両方を含むことを理解した選定・適合の視点、実施方法を習得する。 福祉用具の組み立て・使用方法と利用上の留意点、安全対策 (誤った使用方法や重大事故の例示を含む) 高齢者の状態像に応じた福祉用具の利 用方法 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的動作と日常生活スタイルに応じた福祉用具の特徴 各福祉用具の選定・適合技術 福祉用具の選定・適合の視点、実施方法 福祉用具の適合には、身体能力・状態への適合と生活環境との適合があることを理解する。 生活環境との適合には、住環境と住まい方の両方を含むことを理解した選定・適合の視点、実施方法を習得する。 福祉用具の組み立て・使用方法と利用上の留意点、安全対策 (誤った使用方法や重大事故の例示を含む) ※事例を用いて具体的に説明する 高齢者の状態像に応じた福祉用具の利 用方法 	
			30分	
		最近の福祉用具の動向・活用 介護ロボット等の紹介も含めて別建てとする。		
5	業務プロセスに関する知識、技術	福祉用具貸与計画書の作成	150分	
		福祉用具貸与計画書の作成 時間を延長する。		
		福祉用具による支援の手順の考え方の確認 以下の内容について、自身の担当事例に沿って要点を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> 居宅サービス計画と福祉用具貸与計画等の関係性 アセスメント、利用目標の設定、福祉用具の選定、福祉用具貸与計画等の作成、適合・使用方法の説明、モニタリング等 状態像に応じた福祉用具の利用事例 	120分	

モデル研修前			見直し案			
大項目	小項目	内容等	時間	小項目	内容等	時間
		体例をもとにポイント確認) 【演習の進め方例】 ・点検シート(ワークシート②)を用いて デイスクッション ・点検シート(ワークシート②)を用いて、 専門職に伝えるための工夫や配慮につ いて ・専門職種に伝えるための工夫や配慮に ついて発表		ケアチームにおけるコミュニ ケーションを意識した演習と して、ロールプレイングを入 れる 演習のフィードバックを行う	事例を題材に、専門職種に伝える際の 留意点や伝え方についてディスカッシ ョン ・専門職種に伝えるための工夫や配慮に ついて発表 ・サービス担当者会議のロールプレイン グ 最後に、他グループとの意見交換、講 師からの講評、質疑応答など、フィー ドバックの時間を設定	
	業務プロセス に関するスキ ルの向上	福祉用具の供給の流れの確認 ・福祉用具の製造、輸入、販売及び貸 与の流れ ・介護保険法における福祉用具貸与事 業の内容 福祉用具の整備方法の確認 ・消毒及び保守点検等 利用者及び家族への福祉用具貸与計画 書等の説明と同意 ・わかりやすく説明し専門的な言葉を 使わない ・利用者及び家族が前向きに捉えられ る表現 ・利用者及び家族の状況、疾患、環境 等に配慮する コミュニケーションの重要性とポイン ト ・高齢者の特性の理解とコミュニケー ションの重要性 ・事例演習：場面や相手の状況に応じ たコミュニケーションのポイント 利用者の環境や状況に応じた利用指導 と適合調整 ・利用指導と適合調整の要点の確認 (実践の振り返り) ・事例学習：特殊(対応困難)なケー	210分	業務プロセス に関するスキ ルの向上 時間を短縮し、5.1、5.2と 同じ講義時間とする。	福祉用具の供給の流れの確認 ・福祉用具の製造、輸入、販売及び貸 与の流れ ・介護保険法における福祉用具貸与事 業の内容 ※地域や事業所によって異なる部分 があることに留意し、普遍的な流れ を説明する 福祉用具の整備方法の確認 ・消毒及び保守点検等 利用者及び家族への福祉用具貸与計画 書等の説明と同意 ・専門用語の言い換えや、表現の工夫、 利用者及び家族の状況、疾患、環境 等に配慮など、説明時のポイント コミュニケーションの重要性とポイン ト ・高齢者の特性の理解とコミュニケー ションの重要性 利用者の環境や状況に応じた利用指導 と適合調整 ・利用指導と適合調整の要点の確認 (実践の振り返り)	150分
				ローカルルールや、事業者 ごとに異なる部分があること に留意して説明する。 普遍的な内容を中心にする	【演習の進め方例】 グループディスカッション	

モデル研修前			見直し案		
大項目	小項目	内容等	時間	小項目	内容等
		スにおける利用指導と適合調整の方法 【演習の進め方例】 1. グループディスカッション 利用者及び家族とのコミュニケーションについて 2. ロールプレイング 利用者及び家族とのコミュニケーション			利用者及び家族とのコミュニケーションについて ・ ロールプレイング テーマと役割を決め、利用者及び家族とのコミュニケーションを取る 例：場面や相手の状況に応じたコミュニケーションのポイント 例：特殊（対応困難）なケースにおける利用指導と適合調整の方法 ・ 最後に、他グループとの意見交換、講師からの講評、質疑応答など、フィードバックの時間を設ける。

モデル研修前		見直し案	
大項目	小項目	内容等	時間
6	総合演習	<p>事例演習</p> <p>事例に基づくアセスメント、利用目標の設定、選定、福祉用具の貸与及び福祉用具貸与計画等の作成の演習（グループワーク）</p> <p>利用者・家族やサービス担当者会議等での福祉用具貸与計画等の説明及びモニタリングに関するロールプレイング、グループメンバーによる相互評価</p> <p>※事例は、脳卒中による後遺症、廃用症候群、認知症などの高齢者における福祉態像とし、地域包括ケアにおける福祉用具貸与サービス等の役割や多職種との連携に対する理解が深まるものが見ましい</p> <p>【演習の進め方例】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 点検シートを用いての事例の評価（6事例） 2. 発表準備 <p>代表 1 事例の点検状況と気づきの発表</p>	5 時間
		<p>事例演習</p> <p>事例に基づくアセスメント、利用目標の設定、選定、福祉用具の貸与及び福祉用具貸与計画等の作成の演習（グループワーク）</p> <p>利用者・家族やサービス担当者会議等での福祉用具貸与計画等の説明及びモニタリングに関するロールプレイング、グループメンバーによる相互評価</p> <p>※事例は、脳卒中による後遺症、廃用症候群、認知症などの高齢者における福祉態像とし、地域包括ケアにおける福祉用具貸与サービス等の役割や多職種との連携に対する理解が深まるものが見ましい</p> <p>総括</p> <p>演習の発表内容に関し、講師から、または受講者同士によるフィードバックを行う</p> <p>【演習の進め方例】</p> <p>点検シートを用いての事例の評価（3～6事例）、代表 1 事例の点検状況のおよび気づきの発表</p> <p>利用者・家族やサービス担当者会議等での福祉用具貸与計画等の説明及びモニタリングに関するロールプレイング</p>	5 時間
		<p>総合演習の総括を行う</p>	

5-2. ガイドライン案と指導要領案の見直し

(1) ガイドライン案の見直し

モデル研修結果を踏まえて、カリキュラムの内容や研修の実施方法、研修運営のポイント等を整理して、ガイドライン案の見直しを行った。具体的には、以下の点について、加筆修正した。

- ・ 研修プログラム例と日程について、カリキュラム修正案に合わせて修正を行った。
- ・ 事例の提出と取扱い、活用方法について、モデル研修における実施方法を踏まえて補足した。
- ・ 修了評価の実施方法や基準について、モデル研修における実施方法を基本的な方針として記載した。
- ・ テキスト・教材の作成方法と品質管理の考え方について、モデル研修における実施方法を基本的な方針として記載した。

修正したガイドラインを参考資料7-4に示す。

(2) 指導要領案の見直し

5-1節に示したカリキュラム修正の検討結果をもとに、指導要領案の見直しを行った。具体的には、各単元について以下の項目を修正した。

- ・ 「時間」について、モデル研修における講師、受講者アンケート結果をもとに協議し必要に応じて変更した。
- ・ 「目的」について、特に関連性の深い単元については、それぞれの位置付けや相互の関係を明確にして、記載内容の見直しを行った。
- ・ 「到達目標」について、上記目的に照らして習得すべき内容について具体的な記述とした。
- ・ 「指導内容」について、カリキュラム内容を整理した結果に基づいて、記載内容を具体化した。
- ・ 「進め方」について、モデル研修における進行状況、アンケート結果、ならびにカリキュラムの内容の修正点を反映して、加筆修正した。
- ・ 「確認ポイント」については、到達目標との対応を念頭におき、各単元の講義、演習を終了する時点で確認することを想定して、より具体的な表現とした。

修正した指導要領を7-5に示す。